

入選

復活を遂げた川

徳島市川内中学校 二年 柴田 実咲

初夏の風が私の髪をなびかせる。

「きれい。」

大きな魚が見えるほど透き通る新町川を見て思わずそう声をもらした。幼い頃見た風景と重なって見えるのはなぜだろうか。新町川が利用され始めて長年経った今も変わらず地域の人々に親しまれている。

「水の都・徳島」のシンボルと呼ばれる新町川。夜になると、新町橋・ふれあい橋・両国橋・春日橋に設置されているLEDアートが照らされ光と水の幻想的な演出を楽しむことができる。私も実際に見てみるとライトアップされた橋が水面にうつしだされてより川の美しさが際立っていた。あまりの美しさに吸いこまれるようにみとれてしまう。整備された遊歩道はまさにそれを見るための特等席だ。新町川の魅力を知ってもらうためにも良い取り組みだと思う。LEDアートの他に、「マチ★アンビ」や「とくしまマルシェ」、「ひょうたん島周遊船」などのイベントも行われている。地域の人たちの「たくさんのイベントでより川の魅力を知ってもらいたい。」という思いを次の世代、次の世代へと子どもたち伝えていかなければならないのだ。新町川は地域の人たちと子どもたちとの交流のきっかけをつくるかけはしにもなっているのではないかと考える。また、こういったイベントに参加することで新町川の魅力を深めることができ、新町川を大切にしようという気持ちがいよいよわいてくると思う。そのためにも私達が積極的にイベントに参加するべきなのではないか。

ところで、今は魚が泳いでいる姿が見えるほど透き通る川だが、昔の川はどのようなものだったのか。疑問に思い調べたことにした。昭和初期までは夏になると泳ぐ人でにぎわい水質も良かったが、中期になると町が汚染されゴミが浮かび魚も住むことのできない川になってしまったそう。では、なぜそのような川から今の美しい川へと復活させること

ができたのだろう。その理由は特定非営利活動のNPO法人「新町川を守る会」にあった。清掃活動や遊覧船の運営などを行っているという。私は新町川のために地域の人たちが一体となって取り組む姿を見て心が動かされた。新町川はただ美しいだけでなく、たくさんの人々に楽しんでもらう取り組みや夢と希望を与えてくれる機会をつくる地域の人たちのおかげで成り立っていると考える。長年、新町川が愛されている理由だと思ふ。地域の人たちが新町川をきれいにする、新町川がきれいになると人々が笑顔になる、そんなリレーのようなつながりが新町川を大きく変化させてきたのだ。

「ゴミが捨ててあったら『捨てるな』と言わずに黙って拾う。管理するのではなくそうじをすれば良いんです。」

NPO法人の理事長・中村さんが話していたというその言葉がとても印象に残っている。私は今までゴミが捨てられていたら、捨てた人のせいにしてしまっていた。でもそれはそうじではなく管理をしていたのだと気づかされ、新町川を守るためには一人一人の行動が必要不可欠だと改めて思った。私に新しい考え方をもちたしてくれたあの言葉を今後ずっと大切にしておこう。新町川が今もきれいに流れ続けているのは地域の人たちの支えがあるのだからこそだということを忘れてはいけない。このように、新町川には魚が泳ぐ姿が見えるほど透き通っていたり、人々が楽しめるイベントが運営されたりとたくさんの魅力がある。この魅力あふれる新町川を残すため私たちも進んでゴミ拾いをしたり、イベントの運営を手伝ったりする必要があると考える。みなさんはこの美しい新町川を守るため何が必要と考えるだろうか。新町川のたくさんの魅力を探してみたい。